



議会運営委員会視察報告

令和5年10月31日

泉大津市議会議長 様

出張者氏名	池辺 貢三	委員長
	大塚 英一	副委員長
	黒川 俊明	委員
	松本 真麗	委員
	丸谷正八郎	委員
	堀口 陽一	議長
随行	橋本 幸男	議会事務局次長
	中川 雄介	議会事務局次長補佐兼議事調査係長

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和5年10月19日(木)～10月20日(金)
- 2 出張先 大分県大分市、福岡県行橋市
- 3 目的
 - ・大分県大分市「大分市議会議員政策研究会について」
 - ・福岡県行橋市「議会報告会」の取り組みについて
- 4 報告事項 別紙のとおり

議会運営委員会視察報告書

令和5年10月23日

泉大津市議会議長 様

議会運営委員会
委員長 池辺 貢三

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和5年10月19日（木）～10月20日（金）
- 2 出張先 大分県大分市、福岡県行橋市
- 3 視察内容 大分県大分市【1日目】
 - ・大分市議会議員政策研究会について福岡県行橋市【2日目】
 - ・「議会報告会」の取り組みについて
- 4 概 要 別紙添付
- 5 所 見 別紙添付

1 日目

大分市議会

【大分市議会議員政策研究会について】

(概要)

大分市議会では全議員が参加する全体会議、会派の代表者で組織される役員会議、政策課題を具体的に調査研究する推進チーム会議があり、全員参加・全員一致を原則とし、意見の一致を見るまで検討を重ねる議員政策研究会に取り組まれており、政策課題は全体会議で全議員から募集し、提案者によるプレゼンテーションを経て決定する。政策課題決定後は推進チームを中心に行い、市民・専門家・関係団体との意見交換やパブリックコメントを実施し条例への意見反映に努めている。

(所見)

視察受け入れ、資料作成は議員で実施しているとのこと。

政策討論会に取り組んでいこうとする本市議会において、大分市議会の政策研究会については多くの学びがありました。

議員定数については 44 名と、本市と比較しても約 3 倍弱の定数でありながら、年間 50 回を越す会議の開催だけでなく、会派代表者会議や役員会など、議会全体の合意形成を図るために、何度も何度も議論を重ねることの重要性を感じました。

しかしながら、事務局職員数 24 名（正職 23 名、会計年度任用職員 1 名）で構成のされている大分市議会事務局では、7 名で構成される「政策調査室」を据え置き、様々な条例提案や、政策提言に取り組まれていたが、6 名で運営をしなければならない本市議会事務局と比較するだけでも議会事務局の機能強化が重要であると同時に、政策討論会を進めていくにあたり、議員自らが様々な役割分担を請け負い進めていくことが重要であると感じました。

また、その他の取り組みとして、若年層や市民の方々との市民意見交換会の実施により、その場で出てきた全ての意見を持ち帰り、「その場で

の共有」、「執行部への情報共有」、「所管委員会への申し入れ」をするなど、全議員での情報共有があるからこそ政策研究会に繋ぐことのできる取り組みであると感じた。

さらに、議会モニター制度の取り組みでは、「大分市議会モニター 事前レポート」の取り組みにより、その意見が各議員にとってのそれぞれの良い刺激になっていることが伺えました。

今後、政策討論会に取り組んでいこうとする本市議会にとって、運用基準はあるものの、条例提案や政策提言に繋げていくためにも、より具体的な設置要綱の作成などに取り組むことも重要であると感じました。

2日目

行橋市議会

【議会報告会について】

(概要)

行橋市議会では「わかりやすく開かれた議会」を目指し、議会での審議や活動状況を報告しながら、市民の方々が地域で抱える問題などの意見交換を行われており、その取り組みについて伺いました。

(所感)

多くの点で本市と類似した共通点があるように感じた行橋市の議会報告会では、議会からの報告事項に合わせて各委員会の報告事項にも取り組まれ、わかりやすい議会づくりに励んでおられました。事前の質問への回答でもあったように、正副議長及び各委員長の発言や報告が多いため、全議員が主体性を持って取り組めない事が課題であると感じました。

また、市民と直接対話のできる意見交換の時間や機会の確保が課題となっていることとお聞きし、本市における意見交換会においても同様な課題があることを感じた。

実施すべきは議会報告会か意見交換会かを過去に議論してきた本市にとって、議会報告会の実施ではなく、ライブ配信やフリートーク形式などを取り入れた多様な形式によるより充実した意見交換会の実施が理想であると感じました。

議会運営委員会視察報告書

令和 5年 10月 24日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 大塚 英一

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和5年10月19日（木）～10月20日（金）
- 2 出張先 大分県大分市、福岡県行橋市
- 3 視察内容 大分県大分市【1日目】
 - ・大分市議会議員政策研究会について福岡県行橋市【2日目】
 - ・「議会報告会」の取り組みについて

4 所 見 初日は大分市議会の議会政策研究会の取り組みについて学ばせていただいた。泉大津市議会でも過去に政策討論会を行ったことがあったがその当時は私自身、議員となって間もなかったこともあり、実のある政策討論会が行えたという実感がなかったのが正直なところである。そうした中で今回の視察先の大分市議会では定数が44名ということでどのようにして合意形成が図られ条例制定や提言書のとりまとめまでに至ったのかに注目して臨んだ。取り組みの説明は2名の議員が中心となって進められ議会事務局職員2名は補助的な説明を担当されていた。議員からの説明でまず驚いたのは大分市議会での議会事務局職員の多さで23名の方が在籍されているとのこと。そして特に法務・法制に強い方がこの議会政策研究会の担当をされているという事であった。当然といえば当然であるが条例制定を策定する際は文言ひとつの違いで大きく解釈が異なるといったこともあり、専門的な知識や知見が必要とされる点からこの議会政策研究会の取り組みを支えている縁の下の役割を担っていると感じた。

また感心した点として、全員参加・全会一致を原則として全議員から募集した政策課題を役員会議・全体会議・推進チーム・各会派会議のそれぞれで何度も何度も会議を重ね徹底して積み上げてこられ（説明のなかではぐるぐる会議と称されていた）いただいた資料では2年間で50回以上の会議を行ったとさらりと説明されていたが、おそらく相当なご苦勞があったのではないかと思うが、どこまでいっても全会一致に至るまで徹底的に議論されたことが何よりすごいと感じた。

またさらに注目すべき点として、条例制定に至る過程の中で、市民意見交換会を開催され市民からも意見などもお聞きし、そこでの様々な声も参考にして議論を進められているところも特筆すべき点であると感じた。一連の説明をお聞きし、早稲田大学マニフェスト研究会の議会改革度調査ランキングの上位議会であることに非常に納得をした次第であった。大分市議会の議会政策研究会の取り組みをお聞きし、一足飛びに同

じレベルに到達するのは大変困難であると感じたが、その中でもできることを少しずつ始めていくことが大事なのではないかと感じた。具体的には議員間でのフリートークでもよいと思うので、話し合う機会をまずは設けてみることからスタートしてみるのも一つの方策ではないかと思う。

議会としての大きな役割は行政が予算に基づき執行出来ているかチェックすることは言うまでもないが、議会が一つにまとまり条例制定、また議会としての提言書を執行部に出すことはとても意義があることであり、議会として地位を高め執行部ともよい緊張感をもった関係を構築することに繋がると思う。議会では各党派で考え方が異なるし、議員個人でも考え方は異なる。しかし向いている方向性は議員みな「市民のために」という点では一致していると思う。議会事務局の協力もいただきながらできることから前に進むことが大事であると思った初日の行政視察であった。

続いて2日目は福岡県行橋市議会の議会報告会の取り組みについて学ばせていただいた。泉大津市議会ではこれまで団体との意見交換会は何度か開催しているが、市民に向けて議会としての報告会はこれまでまだ開催したことがないので、人口規模が泉大津市と同じで議員定数も20という行橋市議会の議会報告会がどのように行われているのか大変興味深く説明をお聞きした。行橋市議会ではこれまで3回にわたる議会報告会を開催されたとのことで、1回目は平成27年度に2回目は平成28年度にそしてしばらく期間が空いて3回目は令和5年度に開催され、2回目からしばらく期間が空いたのはコロナの関係などもあり間隔が空いてしまったとのこと。議会報告会の役割は20名の議員がそれぞれ分担して行っているとのことであったが、3回行われた議会報告会の式次第のパターンとしては開会あいさつ、議長あいさつのあと、議会の仕組みを議運委員長もしくは副委員長、各常任委員会からの報告を委員長もしくは副委員長が行い、最後に市民との意見交換を行うというパターンで

あった。

意見交換では様々な意見や個人的な要望など様々出てきて収集がつかなくなってしまうのではないかと思ったが、そこは冒頭に司会より説明をしているとのことであった。議会事務局の説明で第3回目の議会報告会の動画を見させていただきどういった進行で進むのかまた報告会の雰囲気などもよく分かった。いただいた資料に第3回の議会報告会のアンケート結果があったが、参加者の年代別のグラフを見ると幅広く各世代で参加者があったという事は興味深いところで行橋市の市民の方が議会にある程度関心を持たれているのかなと感じた。また参加者の半数以上がまた参加したいと回答されている点も特筆すべき点ではないかと思う。とはいえ議会事務局の方もおっしゃっていたがこれまでまだ3回しか実施しておらず手探りの状況で今後の事は未定ではあるが、各常任委員会の説明をもっとコンパクトにして、意見交換の時間を大きくとるとか、大きな会場だけでなく小学校区単位で実施箇所を増やすなど様々な意見があるとのことなので今後もよりよい議会報告会を模索していきたいとのことであった。繰り返しになるが泉大津市議会では議会報告会はまだ実施したことがなく私自身、なかなかイメージがしづらかったが、動画を見せていただきある程度イメージすることができた点はよかった。

その一方で議会報告会の難しさも感じた。あくまで議会報告会なのでプロセスや議論を経て議案が可決したといった報告がメインなので、当然であるが議員個人の主義主張などは発言できないので注意しなければならない。説明をお聞きする中で議会事務局職員のご苦勞も感じた。

泉大津で議会報告会を行うにあたってはどのような形態で行うのかをはじめ様々なことを十分検討しなければならないと感じた。

以上2日間に渡り行政視察をさせていただき感じたことは、それぞれの議会で様々な工夫を凝らして議会活性化を図っておられる姿を学ばせていただき、現状をよしとするのではなく前向きに取り組んでいく大切さを改めて強く感じた行政視察であった。私自身微力ではあるが議会活

性化の一助となれるよう尽力してまいりたい。

議会運営委員会視察報告書

令和5年10月31日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 黒川 俊明

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和5年10月19日（木）～10月20日（金）
- 2 出張先 大分県大分市、福岡県行橋市
- 3 視察内容 大分県大分市【1日目】
 - ・大分市議会議員政策研究会について福岡県行橋市【2日目】
 - ・「議会報告会」の取り組みについて

4 所 見

① 大分県大分市

人口 472854 人 502.38 平方km (九州では 5 番目の人口)

議員数 44 人

◆議会議員政策研究会について

泉大津市に比べて「市民に開かれた議会」といいますか、議会の改革は進んでいると感じ、また、政策研究会の立ち上げや運営に関しては大きな労力を割かれていると感じました。

ところが、議会改革を進めるためには、議員の労力のみならず議会事務局の人数や労力も大きな役割ですから、本市の事務局の体制（局長はじめ正職員 6 名体制）では、大分市と同じような政策研究会の立ち上げは難しいと感じました。（大分市は議会事務局で 23 名）

◆意見交換会

H20（2008）年から始めた市民との意見交換会は R 5 年度は 11 月 6 日～11 日、19 時～20 時半まで市内の 13 か所で実施。

- ・来られている方々は、基本的には自治会役員が中心で、やはり男性の高齢者層が多いとのこと。
- ・すべての意見に対して、その場で回答か持ち帰って回答かを行なう。回答はインターネットで開示か実施会場に後日にプリントを設置。

◆若年層の意見収集

議員が学校へ出向き意見交換会を実施し、交換会全体でのトークやグループトーク

- ・テーマは学校からの提案のあったテーマもしくはフリートーク。
- ・メンバーは、大分大学のゼミと日本文理大学と芸術文化大学の学校に依頼し参加をして貰っているとのこと。

→ 若者層との意見交換会は泉大津市では現在は実施されていないので、実施するべく行動するべきと感じています。

②福岡県行橋市

人口 72627 人 70.06 平方km 議員数 19 人

◆分かりやすく開かれた議会

議会報告会を平日の 18：30～開催されたのは非常に良いと感じ、また、本市と同規模の人口（面積は本市の約 5 倍も有るのに）で 230 名の方が参加したのは素晴らしいと感じたが、実情は、現在、市長と議会が対立をされていて、地域のマスコミの報道も有り市民の関心が高いため、今年の議会報告会は幅広い年代の方々が参加をしたとのこと。

*議会報告会 2023 年 5 月 17 日に開催 今年で 3 回目。

第 1 回目：2015 年 → 76 人

第 2 回目：2017 年 → 70 人

第 3 回目：2023 年 → 230 人

来年度からは、小学校校区が 11 有るので校区ごとに開催していきたいとの意向。やはり、「市政報告会」ではなく、本市で行なう場合は大分市のように「意見交換会」のほうが良いと感じる。議員の数や人口は本市と大きな差はないが、本市に比べ議員の数は 3 名多く、加えて議会事務局は正職員 6 名に加えて会計年度任用職員が 1 名いるとのこと。

今回、大分市および大分市に近い福岡県の行橋市に視察に伺いました。また、北九州の小倉にも新幹線の都合で立ち寄ることが出来ました。やはり、「百聞は一見に如かず」で、実際に他市に出向き先進事例やこれまでの経緯や苦労話をお聞きしたり街並みを歩きながら拝見し、その都市の取り組みを体感することは、「泉大津市にどのように取り入れていくか」の大きな刺激となる貴重な経験となりました。

議会運営委員会視察報告書

令和 5年 10月 30日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 松 本 真 麗

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和5年10月19日（木）～10月20日（金）
- 2 出張先 大分県大分市、福岡県行橋市
- 3 視察内容 大分県大分市【1日目】
 - ・大分市議会議員政策研究会について福岡県行橋市【2日目】
 - ・「議会報告会」の取り組みについて

4 所 見

【大分市議会議員政策研究会について】

全議員が参加して、市議会として政策を作っていくというために議論を重ねて、一つの条例を作るために力を合わせるということはずごとと感じた。またそのために事務局に政策専門の職員がいるということも、漸進的に物事を進められる土壌が整っていると感じた。やはり議会を運営するということにおいては、会派や党派に関係なく意見を募り市議会として一体となって進めていくことの必要性を感じる。

【「議会報告会」の取り組みについて】

議員で進行や報告内容の分担や広報を主体的に行って、市議会として、市民と向き合うための機会づくりに努めていると感じた。議会報告会開催に際して、広報を行い、報告会も動画で記録され、観る機会づくりにも尽力されており、議会報告会の内容で議会だよりを作り、市民に届ける姿勢づくりが素晴らしかった。市民の意識が泉大津とはまったく違って、積極的な市民が多くいるということがあり、そのあたりの政治意識の醸成についても興味深かった。

議会運営委員会視察報告書

令和 5年 10月 23日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 丸谷正八郎

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和5年10月19日（木）～10月20日（金）
- 2 出張先 大分県大分市、福岡県行橋市
- 3 視察内容 大分県大分市【1日目】
 - ・大分市議会議員政策研究会について福岡県行橋市【2日目】
 - ・議会報告会の取り組みについて

4 所 見

大分県大分市【1日目】

「大分市議会議員政策研究会について」

大分市議会は、議員数 44 名（最大会派、自由民主党 15 名）

議会事務局職員数 23 名（内、政策調査室職員 7 名）の配置である。

議員政策研究会設置要綱を作成し要綱に沿って研究会を運営している。

研究会では、政策的条例案の策定に関する事、市長に対する政策提言に関する事など調査研究を行っている。

条例策定には 3 年以上の期間が必要である。提言策定には 1 年半の期間が必要とお聞きした。全議員の合意形成を図るのに会議を繰り返し行う必要もあり、時間的にも全議員の協力が求められている。

会議資料や調査などを議会事務局が行う個所も多くあるため政策に精通した職員配置が重要となる。泉大津市議会では条例策定は現状を考えると難しいように思います。市長に対しての政策提言から協議を行うことが良いと感じました。

福岡県行橋市【2日目】

「議会報告会の取り組みについて」

行橋市は、人口 72,454 人、世帯数 33,493 世帯であり泉大津市と同じような状況であります。議員数は現在 19 名（条例定数 20 名）となっている。

議会基本条例を平成 26 年 6 月制定し「市民と議会との関係に関する第 3 章で議会報告会の実施」を規定してある。

議会基本条例に従い、平成 27 年度・平成 28 年度・令和 5 年度に議会報告会を開催している。開催時間は 2 時間とし、各委員会報告（4 委員会あり）その後に意見交換となっているが、意見交換の時間が短いと参加者から意見が多くあった。

参加者にアンケート調査を行い今後の運営について改善を図っている。

議会報告会は、市政に関して市民が関心のある内容であれば参加者は増えるが、普段は男性の高齢者が多くなり常連化しがちとなる場合が多く要望や陳情の場になってしまうことが懸念される。議会報告会の内容及び時間や進行など協議を重ねる必要があると感じました。(報告会費用約 15 万円)

議会運営委員会視察報告書

令和 5年10月31日

議長 堀口 陽一

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和5年10月19日（木）～10月20日（金）
- 2 出張先 大分県大分市、福岡県行橋市
- 3 視察内容 大分県大分市【1日目】
 - ・大分市議会議員政策研究会について福岡県行橋市【2日目】
 - ・「議会報告会」の取り組みについて

4 所 見 1 大分市議会

大分市議会における議員政策研究会視察では、全議員が議員政策研究会の構成員であり、構成する全議員から政策課題を募集する仕組みになっていました。

まず各会派から政策研究会推進チームの議員を選出（1期目・2期目の議員中心）する部分と、政策研究会役員（3期目・4期目中心）を選出します。

その上で一旦、全議員から政策課題を募集し、その中からより良い政策をメンバーが積極的に議論を重ねていき、役員会議や全体会議を経て政策立案する形です。

過去の政策事例としては、令和3年3月に政策課題の募集をかけ、令和3年6月に提案者のプレゼンテーションをしたのちに、政策課題の確定をしています。

この時に確定した政策課題は大分市若者応援条例でした。

理由としては、義務教育課程までは、子育て支援等の政策を実施しているが、義務教育課程終了後の若者に対する施策が見受けられないため、若者応援条例が採択されています。

このように全員参加・全会一致が原則の徹底した積み上げ方式でブラッシュアップしていく形が構築されています。

また、議員政策研究会における令和5年の応募課題一覧を列挙しますと、

1. コロナ後の経済対策について
2. 子ども食堂から地域の活性化を図る政策提案
3. 子ども・子育て総合対策について
4. 感染症対策について
5. 移住・定住の取り組み
6. 地域公共交通を守る
7. パークPFIによるアーバンスポーツ施設設置
8. 小・中学生の市議会見学

このように、現状の課題を政策研究会の中で議論していますので、市議会として、行政が施行出来ていない課題を見落とすことなく、政策に反映していこうとする姿勢は、議会のあるべき姿であると強く感じました。

これらの内容を本市議会でも更に検証して、本市に見合った部分は取り入れるべきであると考えます。

所 見 2 行橋市議会

行橋市議会における議会報告会の取り組みでは、初めての開催が2015年4月17日で、今回の視察では過去に開催した議会報告会も含めて詳細に説明頂きました。

議会報告会の1回あたりの所要時間は、おおむね2時間とし、開催は随時としています。

参加者からアンケートをとり、次の開催に反映している点は評価されるべきだと思います。

アンケートの結果については、時間配分に関する反省が多く出されていきました。

第2回開催の議会報告会では市民から住民投票条例の制定に関する署名が出され、議会で否決となった。その後可決されたのちの報告会であったため、図書館建設に関する質問が多くを占めた。

第3回では、現市長が職員採用試験に関する情報を警察に漏洩した疑いがあり、百条委員会を設置し調査中の報告会であったため、百条委員会についての内容が多くを占めた。

このように、議会報告会では市長と議会の対立軸であったり、その時々話題に上る内容に市民の関心が集まり、参加者が多数訪れますが、本来議会が目指すべき報告会とかけ離れているのが実状です。

これらの事を踏まえて本市議会の目指すべきところは、現在行われている市民との意見交換会をアウトリーチ型にするなど、様々な取り組みを試みて、更にブラッシュアップすることが、より良い方策であると考えます。